

第7回 布育(ぬのいく)のすすめ①～手指体を育む～ 簡単布おもちゃ作り「いちごボール」



講師 さとう ゆきこ 氏

はじめに

布おもちゃ作家「ゆっこせんせい」として静岡市を中心に活動しています。3年程前に布育普及協会を作りました。布のおもちゃを通して、子どもの心身の健やかな成長に寄り添います。

1 『ちゃんと遊べば ちゃんと育つ』

子どもは、遊びの中で学んでいきます。身体機能、言葉、知識、音楽や歌などで表現すること、コミュニケーション、知的好奇心や決まり事なども遊びを通して学びます。特に乳幼児期は、教えなくても豊かな遊びを体験することで、それらを身に付けていきます。

遊びを構成する要素はいろいろあります。一つは「人」です。「人」には家族や保育者などの大人や友だちがいます。もう一つは「物」です。「物」にはおもちゃと場所や時間といった環境があります。遊びを見直したいときには、それぞれの要素について考えていくと改善策が見つかると思います。

2 「いちごボール」をつくろう

鈴の入ったいちご型のボールを作ります。

【材料】

- ・水玉生地（半径16cm半円）1枚
- ・ウオッシュャブルフェルト（緑・ヘタ型）1枚
- ・ロープ（黄・輪）1本 ・プラ鈴 1個
- ・手芸用わた ・刺繍糸（赤・緑）

【作り方】

- (1) 布を中表に二つ折りにする
- (2) 待ち針を打つ

縫う線に対して3、4本を直角に打ちます。

(3) 線上をなみ縫いする

赤い刺繍糸を1本引き抜き、縫い針に通します。綿が出ないように細かく縫います。

(4) 裏返す

いちごの先を出すと、いい形になります。

(5) 手芸わた・プラ鈴を詰める

鈴の周りに透明のケースがあることで、綿の中に入れてもいい音がします。プラスチックは、水洗いしても錆が出ることはありません。綿を半分入れたら鈴を入れ、また綿を入れます。

(6) 上部の端から1cmのところを、ぐるっと1周なみ縫いする（糸の長さが足りなくなっても継ぎ足さないこと）

なみ縫い後、巾着のように糸をきゅっと縮めます。玉留めが小さいと、縮めたときに抜けてしまいますので、それを防ぐために、一針目だけ返し縫をします。ここは1cm幅のなみ縫いです。

(7) 糸を引いて縮め、縫い代を内側へ入れて、玉留めをする

(8) フェルトに通したロープの結び目を、中心の隙間に入れる

(9) フェルトの円の線上をなみ縫いする

白い線の上を緑の刺繍糸でなみ縫いします。赤いいちごの部分と緑のフェルトをつなぐので、深く刺します。1周してついていけばいいですが、心配な場合は2周します。

30分前後で、いちごボールが1個できました。

3 どんな遊び方があるだろう

(1) 握る (2) 感触を楽しむ (3) 口に入れる
(4) 振る (音が鳴ります) (5) 落とす (手を放せるようになると、落とすようになります。その都度、お母さんや保育者が「またあ」と言って拾ってくれるので、子どもにとってこれ以上の楽しい遊びはありません。何回も落とすのは、その子のブームですので、存分にやるといいと思います) (6) 投げる (7) 受ける (8) 転がす (9) 蹴る (10) ままごとの道具やごっこ遊びの道具(食べることやお店やさんごっこで売ることもできます) (11) ヨーヨー (12) 吊るす (赤ちゃんが手を伸ばすだけで音が鳴ります) (13) いちごに目鼻を付ける (目と口がつくと友だちやぬいぐるみなどとなり、子どもの中で愛着が湧き、大事なもの、守りたいもの、お世話をしたいものになります)

4 目の前の子どもたちと、どうやって遊びを展開するか?

今の子どもは、このいちごボールをどう使うかを見てみましょう。その使い方によって、その子の今の発達段階が見えてきます。それを見た上で、音を鳴らしてあげたり、一緒に遊んであげたりします。

例えば、食べる真似をしたら、お皿を出してみる、投げたり蹴ったりしたら、バスケットやサッカーのゴールになるような空き箱を出して、「ここにポンとやっごらん」と言って、次の段階を提案します。こうして遊びは展開・発展していきます。興味がなかったものに興味を持つ、できなかったことができるようになる。1人で遊んでいたものが、2、3人でできるようになる。これは子どもの成長です。

「一緒に遊ぶこと」「一緒に遊んであげること」「遊ばせること」は、似ているようで違うと考えます。ではどう違うのでしょうか。

保育者がけがや事故を防ぐのは大前提ですが、子どもが遊んでいるときに監視となっていないかを問うてほしいと思います。保育者がいつも一緒に

遊ぶことは難しいですが、子どもの成長の視点から自分の言動を見直す必要があります。今日の自分は子どもと一緒に遊んだか、遊ばせたのか、監視だったか、子どもの遊びが豊かになるような関わりをしていたかを振り返ることが大切です。

「攻撃は最大の防御」とサッカーなどの球技で言われます。けがをしないようにすることは子どもを守るための配慮であり、もちろん必要です。ですが、それだけでは遊びを豊かにすることは難しいです。

「攻撃」を「遊び」と考えます。保育者が楽しそうに遊んでいると、子どもはそこで遊びたくなり、遊びそのものが盛り上がります。すると子どものけんかやけがが減ります。注意ばかりで遊べないときは役割分担をして子どもと遊んでみてください。

私は、おもちゃとは子どもの遊びを助けるものと考えています。おもちゃは主役ではなく、遊びを豊かにするものです。新しいおもちゃが保育室に現れると子どもは「何だろう」「やってみよう」と思うでしょう。「できるかな」「できた」「またやりたい」というように、子どもの心が動いて、体が動いて、遊んで育っていく。それが遊びの力です。素敵なおもちゃがあることで豊かな遊びができ、その遊びの延長で、健やかな成長と発達があると考えます。

5 布おもちゃの素敵どころ

(1) 癒される

肌触りがいいので、触ればふわふわして和みます。布のものは心が癒されます。

(2) 洗える

いちごボールも洗える素材で作りました。接着剤は極力使いません。

(3) 作れる

作れると直せます。抜けたり取れたりしても、自分で直せます。大好きなぬいぐるみの目が取れてしまったとき、保育者が直してくれたら、子どもはその保育者のことが大好きになるでしょう。

6 手作りおもちゃの素敵なところ

(1) 作りながら、相手を想うこと

今作りながら、どの部屋に置こうか、どの時間に出そうか、この子ならこんな遊びをするのではないかなど思い浮かぶものがあつたと思います。それが、相手を想う時間です。このように遊ぶといいなと、その子の成長や発達を願う気持ちも生まれます。

(2) 保護者との関わり

手作りのものが保育室にあつたら、迎えに来た保護者と家庭での遊びの様子などを話すきっかけになります。私としては、家でも簡単に作ることができると勧めてもらえると嬉しいです。

7 おもちゃを作ることで起きること

おもちゃを手作りすることで子どもと関わろうという思いが湧き、子どもへの願いや関心がさらに高まります。そして子どもと一緒に遊ぼうとアクションを起こします。特に0、1歳児にとって、おもちゃがあるというだけではおもちゃの魅力は半分です。周りの大人がどう関わるかが大切です。

作りたいという気持ちはあっても忙しくてできないという方もいると思いますが、市販のおもちゃや園にあるおもちゃで子どもとどう遊ぼうかと考えることはできます。ですから、保育室にあるおもちゃの見直しをすればいいでしょう。

4月頃の子どもとは違いますので、そのおもちゃは今の子どもにとっては遊び尽くされたのかもしれませんが。それは一つ下の学年の子どもにとっていいおもちゃであり、今の子どもには一つ上の学年のおもちゃが必要になっているのかもしれませんが。しかし、ただおもちゃを入れ替えればいいということではありません。このいちごボールも、一見音が鳴る赤ちゃんのガラガラのようなものだと思ったかもしれませんが、実は様々な遊び方がありました。そう考えると今、保育室にあるおもちゃも様々な遊び方が見えてくるでしょう。新しいおもちゃを増や

すことは難しいですが、このようなことを考えるのはできそうです。

8 布おもちゃが育むもの 『布育』のすすめ

布おもちゃを「手指体を育む布おもちゃ」と「心を育む布おもちゃ」という視点で考えます。「手指体を育む布おもちゃ」は遊びの中で手指体を使ったおもちゃを指します。「心を育む布おもちゃ」は癒し、情緒の安定、ごっこ遊びを通して人間関係を育んでいきます。

9 手指体を育む布おもちゃの事例

(1) にぎにぎ (かえる、さかな、きりんなど)

洗濯ハンガーに紐を付けて吊るします。特に0歳児や入園したばかりの子どもは、保育者に抱っこやおんぶをしてもらうことが多いため、大人と同じ目線で過ごす時間が多いです。ゆらゆらするものを触ったり、音が鳴るのを聞いたりすることができます。

(2) 布ボール

丸いボール、テトラボール、かぼちゃボール、三角ボールなどがあります。

丸いボールは、ラグビーボール型の布を6枚縫い合わせるとできます。テトラボールはテトラポットの形をしています。投げると必ず立ち、ピタッと止まります。またつかみやすいです。ハロウィンときに作ったかぼちゃボールは、いちごボールを作った方法でできます。かぼちゃボールは四角の布で作ります。布を半分にして筒にし、上と下を縫ってきゅっと縮めます。1歳くらいまでのボール遊びは、投げた後、自分でボールまで行ってまた投げることを繰り返します。三角ボールやテトラボールは転がり過ぎないというよさがあります。

(3) ベビーアンクレット

足首につけることをお勧めします。足首につけると、赤ちゃんは触ろうとします。これが全身運動になります。

(4) プレイマット

赤ちゃんが手触りを楽しんだり、めくったり引っ張ったりするものがついています。私は、首が座って体が少ししっかりしてきたら、腹ばいの姿勢をさせたいと考えています。腹ばいは、お腹や背中、腰、肩が強くなっていきます。赤ちゃんによっては腹ばいを嫌がりますが、おもしろいものがあれば腹ばいになると思います。あえて床面におもちゃやマットを置き、腹ばいを楽しむ時間を作ります。

(5) 触ってごらん

フリース、ざらざら、ピカピカのビーズなどの手触りを楽しみます。

(6) 指人形 (パペット・軍手人形)

ぱんだ、うさぎ、ぶたがあります。大人が指を入れて動かすと、子どもは「こうやったら動く」ということを覚えます。はじめのうち、子どもは自分に向けて動かしますが、そのうち自分が見ることと人に見せることの違いがわかるようになってきます。

軍手にフェルトのシールを貼ります。こぶた、たぬき、きつね、ねこが付いたものを2歳児に渡します。保育者が「こぶた」と言うと、子どもは「こぶた」を動かそうとします。薬指を動かすのはとても難しく、自分の指なのに動かさせません。歌とおもちゃで1本ずつ意識して動かそうとします。

(7) たまひよこっこ

中に卵が入っています。ひっくり返すとひよこが生まれます。生活の中で手首を返す、回す、ひねるなどの行為は少なくなっていますが、子どもにとっては必要な体験です。

(8) つながるドーナツ

ドーナツはCの形をしていますから、つなげる、引っ張れば取れる、はめることもできます。つながって長くなる、引っ張れば取れるということで遊べるといいなあと思い作りました。

(9) さんかくポッチ・布スティック (スナップ)

さんかくポッチは、一つの三角の面にスナップの

凹凸が付いています。たくさん付けられるので立体的になり、六角形にもなります。

布スティックは、面にスナップの凹凸が付いています。凹凸の両方を付けるだけで、無限の構成が考えられます。

(10) マッシュリングシリーズ (ひも通し)

マッシュマロみたいな感触で、紐通しができます。通しても布で弾力があるため落ちません。1歳半から2歳の子どもの指がゆっくりと紐に通せます。

(11) ボタンのおもちゃ

ボタンとボタンホールがたくさん付いています。いろいろなつなげ方ができ、巻いてベルトにもなります。ぬいぐるみの首に巻いて、ままごとのペットにすることもできます。遊びの小道具として、無限に使える可能性があります。

(12) いちごボールのアレンジ例

・にぎにぎ

布の半径や角度を変えると、少し形が変わります。赤色で作って顔を付けるとサンタクロースやツリーにもなりますので、装飾にもお勧めです。

・ままごとの食材

いちごボールの作り方で、少し小さく作ります。おいしそうな色で作ると、そのときによっていちごやトマト、肉団子にも見えます。

(13) 俵型のアレンジ例

・リース

同じ作り方でたくさん作ると、クリスマスリースになります。

・ねずみ

タオル生地で作ります。四角い布を半分に折り、上と下を縫ってきゅっと縮め、顔をつけます。

おわりに

園に行かせてもらい、作りたいおもちゃを作るといった研修もできます。土曜日の午後、半日頑張るとおもちゃが増えます。そのような研修も承ります。